

(シラバス No.7) (基幹科目)

科目名	公共哲学特論	単位数	2単位	科目コード	S5
	Advanced Seminar on Public Philosophy	形態	選択		
			担当教員	山脇直司	教職

【授業概要】

アメリカのマイケル・サンデルの影響などで日本でも知られるようになった公共哲学とは、「善き公正な社会を追求しつつ、現下で起こっている切実な公共的諸問題を市民と共に追求する実践的学問」ないし「市民的な連帯や共感、批判的な相互の討論にもとづいて、公共性の蘇生をめざし、学際的な観点に立って、人々に社会的な活動への参加や貢献を呼びかけようとする実践的哲学」(広辞苑第六版)と定義できる。授業では、このような意味での公共哲学を、共生社会実現のための包括的で実践的な学問として展開するとともに、教育の現場でどのように活かすかを考究する。

【授業の到達目標】

1. 英語のパブリックの意味や、日本語の公共の概念を明確に理解する。
2. 教育における公共哲学の重要性を理解する。
3. 滅私奉公や滅公奉私に代わる活私開公(かっしかいこう)型の教育論や福祉社会論を理解する。
4. 公共哲学的観点から生命倫理や経済倫理を考える。
5. 福島原発事故を受けて、環境問題と科学技術の倫理を再考する。
6. 人と国際社会の共生を可能にする平和論を学ぶ。

【授業計画】

1. 公共哲学は何を目指すか
2. 公共哲学の人間観
3. 公共哲学と倫理(総論)
4. 公共哲学の教育観
5. 公共哲学と正義論
6. 公共哲学と福祉社会論
7. 公共哲学と人間の安全保障論
8. 公共哲学と生命倫理
9. 公共哲学と科学技術社会倫理
10. 公共哲学と環境倫理
11. 公共哲学と経済倫理
12. 公共哲学と平和論
13. 公共哲学と国際教育論
14. 「善き公正な共生社会の実現」のために、教育を通じて何を考えればよいのだろうか
15. 「善き公正な共生社会の実現」のために、教育を通して何を行えばよいのだろうか

【評価方法】

「授業内で課すレポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

【教科書】

山脇直司『公共哲学とは何か』(ちくま新書、2004)、山脇直司『社会とどうかかわるか』(岩波ジュニア新書、2008)、山脇直司『公共哲学からの応答——3.11の衝撃の後で』(筑摩書房、2011)、山脇直司『社会福祉思想の革新』(かわさき市民アカデミー出版部、2005)、山脇直司『科学・技術と社会倫理』(東京大学出版会、2015)

【参考図書】

山脇直司『グローバル公共哲学』(東京大学出版会、2008)、ベラー『心の習慣』(みすず書房、1991)、サンデル『公共哲学』(ちくま学芸文庫、2011)、セン『グローバル化と人間の安全保障』(経団連出版、2009年)、『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会、1992)、『社会思想史を学ぶ』(ちくま新書、2009)、Naoshi Yamawaki『Glocal Public Philosophy』(英語本 Lit Verlag, 2016)